



～ 最終投影会に寄せて ～

那覇市久茂地公民館は、1966年2月25日落成した沖縄少年会館が、会館を運営していた当時の「財団法人沖縄子どもを守る会」から、1979年4月1日那覇市に譲渡移管され、那覇市久茂地公民館（初代主査 故伊元 源治氏発令 平成2年4月1日主査が館長に職名変更）と改称された社会教育施設です。

旧沖縄少年会館は、沖縄の子ども達の健全育成の目的で、当時の沖縄教職員会、沖縄PTA連合会、沖縄婦人連合会、沖縄青年団協議会、沖縄校長会協会の5団体を母体として1953年12月1日結成された、「財団法人沖縄子どもを守る会」（初代会長 故屋良 朝苗氏）が、科学教育施設が殆どない沖縄の現状を全国に訴え、多くの先人達の努力により、県内外から多額の寄付、協力を得て建設された教育施設でした。当時としては、7階建てのドームが目立つビルで、プラネタリウム投影や鉄道模型等を展示した科学館として、子ども達に学ぶ楽しさを体験させると同時に、子ども達に人気あるアニメ「赤影」等の上映も行っていました。また、離島の子ども達の宿泊施設ともなっていて、修学旅行や遠征試合時の宿泊施設にも利用され、沖縄の教育界に関わった多くの人々の温かい目と心を形にした施設でありました。「財団法人沖縄子どもを守る会」の活動は、本土復帰前の沖縄において、多方面から高い評価を受けていましたが、財政上次第に厳しくなり、県や市に施設譲渡移管の要請行動を行い、その結果那覇市に譲渡移管が決定しました。

移管後は、那覇市久茂地公民館と改称され、沖縄少年会館は閉館となりました。その施設内に那覇市久茂地図書館、那覇市久茂地児童館の独立した施設が入り、現在まで少年会館建設への思いや意義を引き継いだ形で、多くの皆様に利用されてきました（1979年5月31日、沖縄子どもを守る会解散）。

その施設の中でも、那覇市教育委員会生涯学習課管轄の久茂地公民館は、社会教育施設として、早くも32年という月日が流れ、これまで多くの市民のサークル活動等にも利用され、地域の施設として親しまれてきました。しかし、この施設も45年目を迎えて老朽化し、那覇市久茂地公民館の機能は、モノレール牧志駅から陸橋で結ばれた新公民館「牧志駅前ほしぞら公民館」へ移転することになりました。幸いにも新公民館には、全天投影型のプラネタリウムが設置され、プラネタリウム投影は引き継がれることになっています。久茂地公民館には、沖縄少年会館時代の鉄道模型等の展示やアニメ上映はありませんでしたが、プラネタリウムは、少年会館当時の満天の星の投影を続け、保育園児から高校生、そして宇宙に関心を持つ多くの皆様に親しまれてきました。現在は、パソコンを利用したプロジェクターで、宇宙のDVD映像やニュース等を投影し、プログラムの開発に努め、満天の星を眺めながら、ジャズや沖縄民謡、朗読等を楽しむ特別投影会、惑星の観望会、宇宙の学校、親子星空教室、星空案内人養成講座等多くの事業を行って来ました。現在のプラネタリウム（1965年8月設置、初代操作技師 知念 正永氏、2代仲里 金介氏、3代伊佐 常正氏）は、日本製最初の機種M-1であり、現在作動しているものとしては、古い機種になっています。多くの皆様の思い出多い、懐かしいこのプラネタリウムも、4月30日（土）午後6時の最終投影会で45年の歴史を閉じることになりました。第4代操作技師として、このM-1プラネタリウムの最終操作・解説ができることを誇りに思うと同時に、これまで支援して下さいました多くの県民の皆様にお礼申し上げます。

平成23年4月30日

第4代操作技師 垣花 正男